

はじめに

さて皆さんと解剖学を学びましょう。今こうして本を読むのにも、あなたの体の至るところが働いています。縦書きの文字を追つている眼を動かす筋は、特に忙しいはず。そんなしぐみがわかつたら、自分の体が愛しく思えます。

解剖学を学ぶのに一番いいのは、人体を実際に解剖してみることです。脳も五感もフルに使いますから。

まあ本当に解剖するには、医学生か歯学生になつて、教科書を1000ページ読み、200時間の実習と6時間の試験に耐えないといけないんですが。あ、医者にも歯医者にもならないから、やめとく？ ごもつともです。いや、そうはいえないかも知れないです。

解剖学を知つておくと、ヒトや世界のいろいろなことが、少しそくわかるようになります。それは誇らしく、よろこびでもあります。私などがいうより、車寅次郎氏くるまとじろうに言葉を継いでいただきましょう。

満男 伯父さん、質問してもいいか？

寅 あんまり難しいことは聞くなよ

満男 大学へ行くのは何のためかな？

寅

満男

決まつてゐるでしよう。これは勉強するためです

じゃ、何のために勉強すんのかな？

寅
ん？ そういう難しい事を聞くなつて言つたろ、おまえに：つまり、あれだよ。ほら、人間長あい間生きたりやいろんなことにぶつかるだろ、な？ そんな時、俺みてえに勉強してない奴は、この振つたサイコロの出た目で決めるとか、その時の気分で決めるよりしようがない。な？ ところが、勉強した奴は、自分の頭でキチンと筋道を立てて、はて、こういう時はどうしたらいいかなど、考える事ができるんだ。だから、みんな大学へ行くんじゃねえか。だろ？

『男はつらいよ』第40作「寅次郎サラダ記念日」より引用

だれでも病氣や怪我をします。いずれ最後は死ぬので、逃れるすべはありません。「自分の体のことは自分が一番よくわかっている」なんていいたくさんますが、やはり「キチンと筋道を立て」られるようでありたい。解剖学はそういう、キチンとしたものなのです。あ、医学生さんでしたか。これから解剖なんですね。先生のおっしゃることをよく聞いて、余さず勉強してくださいね。たいへんだけ勉強したら楽しいですよ。この本はまあ、参考程度にもなれば。